



4月1日

## 新採用4人が 仲間入り



山本組合長④から  
辞令交付を受ける新採用職員の川浪さん

4月の定期人事異動に伴い、本店で「辞令交付式」を行いました。異動対象者は65人で、新採用職員は4人（うちパート職員2人）、嘱託職員として2人を採用しました。新採用職員の川浪莉玖さんと古館美輝さんは、緊張した様子で山本康樹組合長から辞令を受け取りました。

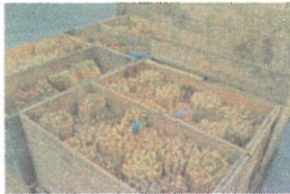
山本組合長は、出席した職員一人ひとりに辞令を手渡した後「新たな配属先が自身の適所となるように、それぞれの力を発揮してほしい」と訓示を述べました。

4月4日

## マメコバチ 保管受付



搬入されたマメコバチを  
預かる職員



中央りんごセンターでは4月12日、マメコバチの冷蔵保管を受け付け、木箱約900箱分のマメコバチを26日まで保管しました。リンゴ「ふじ」が展覧し薬剤散布をした2、3日後に冷蔵庫から出し、園地に設置します。

リンゴの授粉に活躍するマメコバチは、巣筒となるアシガヤの中でカチカチと音を立てて動き出した頃に冷蔵し、薬剤散布を終えるまで保管しています。

古いアシガヤを使い続け、筒内の繭を洗浄しないなどの不十分な管理が続けると、マメコバチは減少してしまうため、りんごセンターの担当者「基本的な管理を徹底してマメコバチを増やし、結果確保に努めよう」と呼びかけました。

4月11日

## 散布適期を 見極めて

りんご共防連は、中央りんごセンターで薬剤散布検討会を開きました。生産者約60人が参加し、今後の作業と薬剤散布のスケジュールを確認しました。

講師を務めた西北農林水産事務所農業普及振興室の担当者は「天候によって生育が早まる可能性がある」と注意喚起し、適期を見極めて散布するように呼びかけました。

豪雪で枝折れなどの被害を受けた木の処置方法も説明し、資料に記しているQRコードから動画を閲覧し、確認するように促しました。

2日に開かれたりんご共防連通常総会で新会長に選任された成田義雄会長は「大雪の影響で作業の遅れが懸念されるが、1回目の散布に間に合うようにしっかりと準備していきましよう」とあいさつしました。



春作業の注意点を確認する生産者ら







## 令和6年産園芸作物各部会販売報告会 および通常総会開催



園芸作物の各部会は1月より順次、令和6年産の販売報告会および通常総会を開催しました。

販売報告会では、生産係の職員が令和6年産各種農産物の生育概況を、園芸係の職員が販売実績や出荷数量などを報告し、通常総会では令和6年度の活動報告および収支決算書、令和7年度の事業計画書（案）並びに収支予算書（案）などが審議されました。

令和6年産園芸作物の販売金額は、ピーマンが昨年の2億円を上回る約2億6500万円（前年比128.5%）、桃が約1億800万円（前年比107.7%）となり、園芸作物（やさい、特産果樹、花きの合計）は、11億8750万円（前年比112.1%）となりました。



### 土づくりセミナー開催

中央地区営農係は、肥料や生産資材などの価格高騰を受け、肥料コストの削減に向けた取り組みの一つとして、土づくりセミナーを藤崎支店と和徳支店の2会場で開催しました。

講師を務めた同地区営農係の職員は、物理的、化学的、生物的性質の観点から健康的な土づくりに必要なことについて説明しました。また、肥料削減技術として、堆肥や緑肥を活用した土づくりの方法を紹介し、「定期的に土壌診断を実施して土の状態を把握した上で改善点を見つけましょう」とアドバイスしました。



### ピーマン・アスパラガス 新規作付け相談会開催

生産係は本店会議室において、ピーマン・アスパラガス新規作付け相談会を開催しました。作物ごとに分かれ、各担当職員が作付けの利点や主な栽培管理、必要経費、収支試算などを説明しました。

当JAでは、春先から夏場にかけての収入確保と継続した作業員確保のため、りんごとの複合経営としても可能な園芸作物の作付けをおすすめします。品目ごとに生育に応じた現地セミナーの開催や、現場に出向いての支援など、取り組みやすい環境作りに努め、全力でサポートしています。





マメコバチ入庫開始

12 日

4月3日、リンゴの結実確保に欠かせない授粉作業を助けるマメコバチの冷蔵保管が始まりました。自然条件下では、リンゴの開花前にマメコバチが巣箱から出てしまい授粉に活用できません。そこで農協では、5℃程度に保った冷蔵庫でマメコバチが脱出をする時期を調整して、薬剤散布の日程や開花日まで保管しています。

この日入庫に訪れた水木在家の三上誠さんも「昨年は、いつもよりマメコバチが飛んでいなかった。今年預かってみて飛ばないようならアシガヤを割って、様子を見てみようと思っている」と語っていました。



飛べ！飛べ！ マメコバチ～

農機センター売り出し

8 日

4月5日、湯口支所農機センター前で春の大展示即売会が開催されました。

当日は、青空が広がっているものの肌寒い一日でしたが、多くの生産者が訪れていました。

購買では、農作業シーズンに向けて雨合羽やはしごや長靴などが特別価格で販売されていました。

農機、自動車、スプレヤーのほかに豪雪だったこともあってタイヤシヨベルも展示されていました。中でも草刈機に乗りながら、手元レバー操作で肥料散布が出来る牽引式散布機に組合員の注目が集まっていました。



使いやすいのかな？

弘前市りんご園地視察

15 日

4月9日、櫻田弘前市長は市議会議員と共に、雪害によるリンゴ園地の視察で当管内を訪れました。紙漉沢地区の成田貴仁氏園を訪れ雪の重さで幹折れした被害樹の前で、今回の状況について説明を聞きました。

折れた樹の補修はどのように行うのかと聞かれ、枝受支柱やかすがいなどの必要性を伝えました。

頑張って収量確保したいが、苗木の確保やこれからの霜被害も心配だと話す生産者に市長は励ましのエール送っていました。



視察に訪れた、櫻田弘前市長

第一回巡回講座

4 日

4月11日、今年第一回目の巡回講座が相馬管内12箇所で開催されました。普段講座行っている園地の消雪が進まず、会場2ヶ所ほど変更しましたが、たくさんの生産者が足を運んでくれました。

振興課職員より今後の作業の進め方や防除ポイントの説明に真剣な眼差しで耳を傾けていました。続いて、中南農林水産事務所の担当より、マメコバチが減っている理由や農作業事故防止について呼びかけがありました。収穫まで行われる巡回講座ですが、次回の参加お待ちしております。



防除ポイント再確認しました（マ）



## 南八甲田高原野菜生産組合通常総会



南八甲田高原野菜生産組合（小林喜代勝組合長）は4月15日、葛川集会所で「第48回通常総会」を開き、組合員30人が出席しました。

総会では、栽培技術の向上と生産体制の強化を図り、今後も野菜産地として継続的に発展し、所得向上と経営安定を目指すことを承認しました。また、目標販売額8億円以上の達成や、産地の知名度を高めることを目指すスローガンを確認し、一丸となって野菜生産に取り組むことを誓いました。



あいさつをする小林組合長

## 水稲種子播種作業



田舎館グリーンセンターでは、毎年水稲苗の播種作業を行っています。

同地区では、生産者が春作業で忙しく、播種作業の人材確保などが難しいことから、約50年前からJAが播種作業を行い提供しています。今年は50件の申し込みがあり、まっしぐら1万2,724枚、青天の霹靂3,384枚を播種。数ミリ程度出芽した状態の苗を、JA職員が生産者のトラックに積み込みました。



水稲苗をトラックへ積み込む職員

## 交信かく乱剤設置講習会



板柳グリーンセンターは5月1日、板柳町と西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室と合同で、交信かく乱剤「コンフューザーR」の設置講習会を開きました。

同剤は、ポリエチレン製チューブの中に、人工的に作られたフェロモンが入っており、食害を及ぼす害虫「モモシクイガ」の交尾を阻害する効果が期待されています。講習会では、西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室の職員が同剤の性質や効果的な設置方法などを説明しました。



設置方法を学ぶ参加者

## 県知事がりんご園の雪害確認



宮下宗一郎知事は4月10日、黒石地区と平賀地区のりんご園を訪れ、年末年始の大雪による被害状況を確認しました。

宮下知事は、園主の説明を受けながら、りんご園を視察し、被害を受けた木を確認。また、生産者との意見交換も行われ、生産者からは「切り株を抜くための重機リースによる支援をしてほしい」、「苗木不足をどうかしてほしい」といった要望がありました。



園主の説明を受ける宮下知事



4/10



## ナガイモ収穫急ピッチ

当JA管内で3月下旬から4月末にかけて、ナガイモの春掘り作業が急ピッチで行われました。地温が高まると品質低下につながるため、JAでは4月下旬までに入庫を済ませるよう農家に呼びかけました。作柄は高温の影響で、ほ場によって細長い傾向であるものの、越冬してうま味が凝縮されコクのある味わいに仕上がりました。

七戸町の和田武志さんは降雪や降雨の影響により、例年と比べて10日ほど遅いスタートとなりました。不安定な空模様を気にしながら、5月に植え付け予定の種芋の収穫を急いでいました。和田さんは「種芋用が終わったらすぐに出荷用の掘り取りに移行する。味や品質を落とさないよう早めの収穫をしたい」と話していました。

十和田やさいセンターでは4月下旬から春掘りナガイモの出荷が始まっています。最も需要が高まる夏場の販売に向けて、安定した品質と数量で農家所得の増大をめざします。



▲ナガイモの掘り取り作業を急ぐ和田さん

4/10



## 常勤理事が農家を督励巡回

畠山一男組合長ら常勤理事が、春作業が本格化しているほ場を督励巡回しました。今回はナガイモの春掘り作業を盛んに行っている農家を中心に巡回し、作柄や作業の進捗状況を確認したほか、JAの販売戦略などについて説明しました。

生産農家からは「規格外品を無駄にしないよう買い取りしてもらえると助かる」「諸経費を考慮した精算方法にしてほしい」などの声が聞かれました。畠山組合長は「今年は下位等級品の取り扱いを強化し、有利販売の展開で少しでも農家の手取りアップにつなげたい」と話しています。



▲意見や要望を聞きとる畠山組合長(左)



▲JAの販売戦略を説明する小向豊常務(左)



▲作業の進捗状況を確認する斗澤康広専務(右)



# 3/25 種もみ温湯消毒実施 天間林営農センター



温湯消毒を行う生産者

J A ゆうき青森天間林営農センターは、特別栽培米「みよこ米」と「まっしぐら」の水稻生産者を対象に、令和7年産用種もみの温湯消毒を行った。

温湯消毒は、種もみ専用の機械で60℃に保たれたお湯に10分間の浸漬処理をした後、冷水に5分以上さらして行われた。温湯消毒は環境保全や減農薬栽培の消毒技術として全国各地で普及されており、いもち病・ばか苗病・もみ枯細菌病・苗立枯細菌病・イネシנגアレセンチュウ等に効果がある。

同センターでは3台の専用機械を使用し、3月25日から4月5日までに生産者101名の約1.5トンの種もみ消毒を実施した。

# 4/16 水稻栽培講習会 六ヶ所村



講習会の様子

六ヶ所村技術者連絡協議会は16日、水稻栽培講習会を開催した。農業普及振興室三沢分室の杉山真一技師を講師に迎え、適切な育苗管理について学んだ。

講習会では、4月中の気温が高くなってきていることから葉齢に応じた適切な温度・水管理に注意するほか、農作業事故を防止するため安全管理の徹底を呼び掛けた。

参加者は、適切な農薬散布の方法や使用時期について質問し、より良い栽培管理に向けて知識を深めた。





## 秋田・男鹿の文化、歴史を学ぶ ～JAおいらせ女性部合同視察研修～

3月6日から2日間、JAおいらせ女性部は三沢支部と六戸支部合同の視察研修を行いました。秋田市、男鹿市を訪問し、それぞれの歴史と文化、伝統料理を学ぶことができました。

あきた舞妓劇場でお茶会、舞台公演、お座敷遊びを体験。舞妓さん、芸者さんの美しさはもちろん、文化の伝承に日々稽古を重ねる姿に部員一同魅了されました。

男鹿市では民俗行事「なまはげ」の習俗学習講座に参加し、なまはげの再現に驚いたり笑ったりと楽しみながら歴史を学んだほか、男鹿水族館GAOを見学や、伝統料理は男鹿の漁師鍋、石焼料理をいただきました。お隣の県でも知らなかった文化や文化の違いを再発見できた視察研修となりました。



### 理事会だより

#### 定例理事会

日時：令和7年3月28日(金) 9:00～

#### 案件

- |        |                                                     |
|--------|-----------------------------------------------------|
| 議案第1号  | 令和7年度事業計画について                                       |
| 議案第2号  | 固定資産減損会計における減損損失の計上について                             |
| 議案第3号  | 令和7年度コンプライアンス・プログラム及び不祥事未然防止のための行動計画並びに個人情報保護計画について |
| 議案第4号  | 持続可能な収益性確保のための取組みについて                               |
| 議案第5号  | 就業規則の一部変更について                                       |
| 議案第6号  | 育児休業等に関する規程の一部変更について                                |
| 議案第7号  | 介護休業等に関する規程の一部変更について                                |
| 議案第8号  | 定年再雇用規程の一部変更について                                    |
| 議案第9号  | 個人情報保護法に基づく公表事項等の一部変更について                           |
| 議案第10号 | 自己資本比率算出規程の廃止について                                   |
| 議案第11号 | 令和7年度の余裕金運用について                                     |
| 議案第12号 | 役員候補者補欠選挙の日程について                                    |
| 議案第13号 | 役員候補者補欠選挙投票所および開票所の選定について                           |
| 議案第14号 | 役員候補者補欠選挙管理者、開票管理者、投票管理者および立会人の選任について               |
| 議案第15号 | 年度末手当の支給について                                        |
| 報告事項1  | 令和6年度決算について                                         |
| 報告事項2  | 令和7年度内部統制整備運用実施計画の設定について                            |
| 報告事項3  | 保有個人データ等の開示等に関する手続要領の一部変更について                       |
| 報告事項4  | 自己資本比率算出事務要領の全面変更について                               |
| 報告事項5  | 年金定期貯金キャンペーンの実施について                                 |
| 報告事項6  | 農業資金融資要項（統一版）（青森県版）の一部改正について                        |
| 報告事項7  | ローン融資要項（統一版）（青森県版）の一部改正について                         |
| 報告事項8  | ㈱ジャックス保証付マイカーローン・アパートオーナー向けリフォームローン貸付要項の一部改正について    |
| 報告事項9  | JA自然災害損害調査員設置要領の一部変更について                            |
| 報告事項10 | 令和6年度産春掘り長芋及び共選越冬ごぼうの仮渡金について                        |
| 報告事項11 | 内部統制システム基本方針に基づく整備・運用状況の監査報告書について                   |
| 報告事項12 | 内部監査報告書について                                         |



## にんにく 徹底した栽培管理を



▲ 説明に耳を傾ける参加者

にんにく専門部は4月8日と9日、管内15ヶ所でにんにく栽培講習会を行いました。このうち、福地野菜集出荷場で行った講習会では25人が参加しました。

農業普及振興室三戸分室の山下のぞみ主幹が講師を務め、生育状況と今後の管理作業について説明しました。講師は「葉先が黄色いほ場も見られるが、生育は概ね順調に推移しています。排水対策、茎葉の傷みには葉面散布剤を活用し、各自ほ場の状況を確認し管理しましょう」と呼びかけました。

## ピーマン 定植準備しっかりと



ピーマン専門部五戸支部は4月15日、管内3ヶ所でピーマン定植講習会を行いました。

講師に農業普及振興室の吉田理見技師を招き、定植をいかに好条件下で行い、初期生育をスムーズに促すことが大事であり、その後の収量に大きく左右されると説明しました。

さらに、JA指導員は「定植後に、一昨年、昨年と2年間、霜や乾燥で悩まされたので、今年は天気や畑の水分状態を確認してから定植してください。また近年、病害虫の発生が多くなっているため、病害虫の種類、農薬の特性を理解し効率的な防除に努めてほしい」と話しました。



▲ 注意点を説明する講師

## 水稻温湯消毒 五戸地区で終了



▲ 作業の様子

JA八戸では水稻温湯消毒作業が五戸地区で終了しました。このうち、川内育苗施設では4月2日から消毒を開始し、20日で終了。この期間内にのべ10回行い、280ha分の水稻温湯消毒作業を行いました。

JA職員や作業員6人が、ネットに入れた種もみ(5kg)を60度の温湯に10分間浸し、その後冷水中で冷やす作業を繰り返し行いました。温湯処理は農業使用と同等の殺菌効果が期待できます。

今後、八戸管内では秋の豊作に向け、早いところでは5月初旬から田植えが始まります。





5月1日

## 中学校で 交通安全教室

J AこしょつがるとJ A共済連は、つがる市立木造中学校で交通安全教室を開きました。全校生徒273人が見守る中、車と自転車がぶつかる事故をスタントマンが再現。生徒は正しい自転車の乗り方を学びました。

J A共済連は全国で交通事故未然防止活動を展開。県内では1年間に4校で交通安全教室を開いています。

この日、自転車に乗ったスタントマンが車にはねられると、その迫力に生徒から声が上がりました。生徒の代表が正しい自転車走行を実演し、安全な乗り方を確認しました。生徒は「危険を再確認できた。事故に遭わないように気をつけたい」と感想を述べました。



横断歩道前で自転車の一時停止を実演する中学生⑥

5月10日

## 苗の植え付け 楽しく体験

まるっと新鮮館での野菜苗大特売会に合わせて、プランター体験イベントを開催しました。家族連れ5組13人が、ミニトマトやピーマン苗の植え付け体験を楽しみました。イベントは、地域住民との交流や農業理解促進を目的としており、今年で3回目になります。参加者のほとんどが家庭菜園初心者で、北斗種苗園の菅原光春さんから、苗の植え方やプランターでの栽培ポイントの説明を受け、作業を進めていきました。参加した家族連れは「おいしく実るのが楽しみ」と話し、植え付けたプランターを持ち帰りました。



▶菅原さんから指導を受けて、脇芽を摘む親子



▶優しく苗を植え付ける子どもたち

5月12日

## 女性部員と 小学生が田植え

つがる市立瑞穂小学校では、毎年5年生が学校田で米作りを体験しています。今年はJ Aの女性部員が収穫、調理実習までをサポートします。

5年生33人が行う田植えに、女性部員6人が参加しました。木村幸子女性部長は、作業の前に「秋にはおいしいお米が食べられるように、一株ずつ願いを込めて植えていきましょう」とあいさつ。

児童らは裸足になって田んぼに入ると、水の冷たさや泥の感触に驚きの声を上げながらも、女性部員のサポートを受け、まっしぐらの苗を丁寧に植え付けていきました。

今後児童らと女性部員は、秋にかけてイネの成長の観察や収穫作業、調理実習までの一連の作業を共に取り組む予定です。



あいさつをする木村部長



児童らと田植えを楽しむ女性部員







4  
22・23

## 機能性表示食品「ひろまる」PR販売

「ひろまる」は、消費者ニーズを捉えた中小玉サイズのサンふじで、地域ブランドとして全国展開しています。



弘前市、JA相馬村、JAつがる弘前などからなるりんご機能性協議会は、弘前さくらまつの開催にあわせ、りんご生果の機能性表示食品「ひろまる」のPR販売を弘前市役所前で行いました。

「ひろまる」は、弘前産りんごのさらなる消費拡大に繋げるため、弘前市とJA相馬村、当JA、その他各関係団体が連携して令和5年に誕生した機能性表示食品です。同協議会は今年4月、りんごの機能性表示食品制度への取り組みや消費者への普及啓発を通じて、りんご産業の発展に寄与することを目的に産学官連携で設立しました。今回のPR販売は、初の活動となります。

りんご販売部職員は最終日の23日街頭に立ち、弘前さくらまつりに訪れた観光客へ弘前産りんごの美味しさと新鮮さ、りんごに含まれるプロシアニジンには内臓脂肪を減らす機能があることをアピールしました。「ひろまる」を試食した観光客は「今の時期でもこんなにシャキシャキのりんごが食べられるなんて。弘前のりんごはおいしい」と笑顔で話しました。



## 第9期 農業後継者研修 開講式



2年間で合計17回の研修を受講する予定です。開講式では、天内組合長が「2年間の研修で知識や技術を学び、スキルアップして欲しい」と受講生を激励しました。受講生たちは「情報共有を行いながら、技術の習得に励みたい」と抱負を述べました。

本店3階ホールにおいて、第9期農業後継者研修の開講式を行い、受講生17人が出席しました。農業後継者研修は、地域農業の発展のため、後継者を養成することを目的に実施しています。各事業部職員が講師を務める講習会や、組合員園地に出向いてアドバイスを受ける現地視察などがカリキュラムとなっています。りんごや水稲、園芸作物の栽培技術の他、JAの役割、農業経営などについて、



4  
28

## 第9期農業後継者研修開講



花粉開薬所盛況

12月

ベトナム人実習生  
りんご学習

4月

第二回 巡回講座開催

4月

今年のりんごの花の開花は、昨年より11日遅れて5月8日に確認されました。今年も農協本所倉庫に花粉開薬所を設置し、多くの生産者が花粉の開薬に訪れていました。近年、開花期間中の天候不順やマメコバチの減少が影響を及ぼしているため、結実の確保と良品生産を目的として人工授粉が行われています。

組合員は、王林や金星など風船状から開花直前になったリンゴの花を摘み取り持ち参し、薬採取機を使用して花から薬を取り出した後、薬に混ざった花などをふるいで選別し、花粉を箱に敷き詰めます。加温した乾燥室で乾燥させた後、組合員へ引き渡していました。

ふるいにかけて花粉を採取する



リンゴの花を開薬機へ



5月8日、ベトナム実習生12名が五所地区の園地で摘花作業の実技研修会が行われました。

前半は、本所2階大会議室で齊藤大貴主任より資料と映像による事前研修をし、後半は、畑に出向き実技研修を行いました。

園主の三上専務も加わり、実技の説明を聞きながら参加者はふじの摘花作業に励みました。

園地で農作業を安全に進められるように、傾斜地においての梯子の使い方についても学びました。



熱心に説明を聞く実習生



摘花を作業してみる参加者



園主であり、先生でもある

5月19日、相馬管内12箇所で開催した。109人の生産者が集まりました。農業振興課職員や普及振興室職員より、リンゴの生育状況や、今後の作業計画、農作業事故防止について話を聞きました。そして、販売課職員より令和6年産のリンゴの入庫状況や販売の概況の説明に耳を傾けました。

巡回講座は6月中旬にも開催します。



説明に真剣に耳を傾ける



# みらいトピックス



地域の活動が、SDGs につながっています。

## 各地区で田植え作業



ＪＡ管内では、5月中旬から下旬にかけて、田植えの作業が行われました。令和7年産米は、青天の霹靂が924㍉、まっしぐら1,960㍉、はれわたり620㍉を作付けします。

5月27日、津軽みらい農協特Ａ米プレミアム研究会の会長を務める横山英樹さんの田んぼでは、県のブランド米「はれわたり」の苗を植え付けしました。横山さんは、作付けする全ての米を通常よりも農薬と化学肥料の使用量を減らして栽培する「特別栽培米」として栽培しています。米の栽培について横山さんは「全体的に食料自給率が低下する中、米は100%を維持できる品目と思っている。今年も安全安心な米を安定供給できるよう努め、消費者においしい米を届けたい」と意気込みました。



田植えをする作業員





## スナップエンドウ出荷説明会



尾上青果センターは5月7日、スナップエンドウの出荷説明会を開きました。

説明会では、同青果センターの職員が出荷規格や収穫時の注意点などについて説明。また、説明会終了後には目揃え会も行い、参加者はサンプルで出荷規格を確認しました。



スナップエンドウの出荷規格を確認する生産者



乙部会長から目録を受け取る奈良組合長

## 建物被害に対する見舞金贈呈式



J A グループ青森四連（乙部輝雄会長）は6月6日、建物被害に対する見舞金の贈呈式をJ A本店で開き、乙部会長が奈良寧組合長に目録を手渡しました。

奈良組合長は「当J Aでも多くの被害が生じたので、見舞金はとてもありがたい。被害の修繕や修復に活用させていただきたい」と述べました。

## ぶどう栽培講習会



ぶどう生産部会（齋藤晴彦部会長）は6月3日、J Aぶどう生産販売対策協議会が開いた栽培講習会に参加しました。講習会は石川地区で開かれ、生産者12人が参加し、ぶどうの適切な栽培管理について学びました。

青森県中南農林水産事務所農業普及振興室の職員が講師を務め、「スチューベン」と「シャインマスカット」の生育状況や栽培管理について説明。両品種の作業時期や、作業を行う際の注意点などについて説明しました。



講師の説明を聞く生産者



## 5/28 ダイコン全国各地へ出発

ももいし野菜センターでダイコンの初出荷式を開き、生産農家やJA作業員、運送会社の関係者ら60人が出席しました。令和7年は、は種後の降雪や降雨、低温などの影響でサイズに若干のバラつきが見られますが、品質は良好。ピーク時は管内全体で日量100トンを出荷する計画で、JAでは冷蔵運送による鮮度保持などに努め、シーズン取扱高11億5800万円超えを目指します。

出荷式では農家の代表ら6人のテープカットで安全運送を願い、ダイコン10トンを積んだトラックを見送りました。

野菜振興会だいこん専門部会の山白覚部会長は「本格的な出荷を前に胸が躍っている。順調に生育しているので、価格の安定を願い最後まで良品・安定出荷に努めたい」と意気込んでいます。

管内の出荷は11月中旬まで続きます。



▲出荷を迎えたももいし野菜センター



▲首都圏に向けてトラックにダイコンを積み込む運送業者

## 5/9 ピーマン塾で経営支援

当JAは品目（ナガイモ、ニンニク、ゴボウ、ネギ、ピーマン）ごとに育成塾を開き、農家の安定した経営を支援しています。なかでも、近年力を入れているのが「ピーマン塾」。軽量野菜で作業がやすく、価格が安定していること、機械など新規投資が不要な作物として、JAでは新規就農者や作物転換を考える農家に作付けを提案しています。

令和7年度のピーマン塾生は45人。生育ステージに合わせた講習会と生産農家の個別巡回で、各ほ場の生育や管理状況を細かにチェック・指導しています。

入塾3年目の工藤拓郎さんは「生育状況に見合ったアドバイスを都度もらえるのは心強い。着果までの管理に苦戦した昨年を上回る品質と収量を目指したい」と意気込んでいます。

ピーマン栽培を指導する古川麻衣子指導員は「作業負担が比較的少なく、高齢農家や新規就農者も挑戦しやすい作物である。わずかな面積からでも確実な収入につながるよう全力でサポートする」と話しています。



▲個別巡回で生育状況と管理方法を確認する農家ら



## 5/23 農作業通じて地域理解 日本原燃新人研修



生産者とナガイモの植付作業を行う新入社員

J A ゆうき青森は、日本原燃(六ヶ所村) 2025年度新入社員の農業研修受入を行い、46人の新入社員が農作業に汗を流した。

研修は、農家とのコミュニケーションを通じて地域理解を促し、住民との信頼関係の構築を目的として実施している。3～4人で1グループとなり六ヶ所村と東北町で、大根の播種作業やナガイモの植付作業などを行った。

受け入れた生産者からは、「思った以上に頑張ってくれて助かっている」と笑顔。新入社員の市川達也さんは「農家の苦労を肌で感じた。地域理解が深まり安全を守る気持ちが強まった」と語った。

## 5/23 スタントマン事故再現 野辺地中学校で交通安全教室



スタントマンによる車と自転車の衝突事故再現

J A ゆうき青森とJ A 共済連は、野辺地町立野辺地中学校で自転車交通安全教室を開いた。全校生徒243人が見守る中、スタントマンが自転車事故を再現。生徒からは驚きの声が上がった。

地域貢献活動の一環として、日常的に自転車を利用する生徒が、交通事故の恐ろしさを実感して交通ルールを守る意識を高めるのが狙いだ。

プロスタントマン6人が、車と自転車の衝突事故や大型車による巻き込み事故などを実演。生徒らは、跳ねられて地面に転がる人や衝突音の大きさに息をのんだ。

生徒を代表してスタントマンへ謝辞を述べた生徒会長の滝沢華波さんは「ヘルメットを着用して自分の命は自分で守りたい」と誓った。

## 5/28 子牛管理品評会 生産・育成技術向上目指す



去勢の部最優秀賞の「美津芳金号」



雌の部最優秀賞の「ひまわり号」

J A ゆうき青森和牛改良組合は、らくのう営農センター敷地内で第24回子牛管理品評会を開いた。審査の結果、去勢の部は沼田昭さんが出品した「美津芳金号」、雌の部では銚子グリーンファームの「ひまわり号」がそれぞれ最優秀賞に輝いた。

同品評会は、子牛の生産・育成技術の向上を目的として年2回開催されている。

この日は、東北町と六ヶ所村から去勢の

部8頭、雌の部11頭が出品された。審査員として全国和牛登録協会県支部から小笠原学地方審査委員ら4人が招かれ、牛の皮膚を触りながら資質や月齢に合った生育かチェックした。

その他の受賞者は以下の通り。(敬称略)

◇優秀賞◇去勢の部＝阿部市仁◇雌の部＝木村政彦 ◇優等賞◇去勢の部＝浜田竹美◇雌の部＝江刺家栄作



獅子座 (7.23～8.22)

〈全体運〉上昇運です。スローモードで入って徐々にスピードアップしていきましょう。足元を踏み固めながら着実に進めて〈健康運〉よくかんてゆっくり食べて。喉あめを携帯すると〇〈幸運の食べ物〉ツルムラサキ





## 病虫害対策の呼び掛け にんにく講習会

おいらせ農協やさい推進委員会にんにく部会は4月18日に六戸地区で、24日に三沢地区でニンニク栽培講習会を開催しました。六戸地区では約40名、三沢地区では約30名が参加しました。

上北農林水産事務所農業普及振興室三沢分室の担当者が講師を務め、ニンニクの栽培方法について確認しました。今後の管理として病害対策は降雨前の予防散布、害虫は発生初期に防除するよう呼び掛けました。



三沢地区



六戸地区



## ハウスの温度管理と水管理の徹底 水稻現地講習会

六戸町農業振興対策協議会は4月17日、六戸町内の3か所にて水稻現地講習会を開催し、生産者約21人が参加しました。上北農林水産事務所農業普及振興室三沢分室の担当者と、JAおいらせの営農指導員が講師を務め、育苗をする上でのポイントや、水稻用の除草剤について説明しました。

育苗中の苗代の葉齢に応じたハウス内の適切な温度管理と水管理について指導しました。水稻用除草剤については、各除草剤の特性の解説を行い、雑草の種類に合わせた薬剤を選ぶこと、効果を適切に発揮させるための水管理等のポイントを合わせて説明しました。春先の農業事故が多いことを伝え、安全対策の重要性について呼びかけました。

また、熱中症対策と発生後の対応についても併せて説明しました。



今月のあなたの運勢★6月

牡牛座  
4/20～5/20

【全体運】頼み事を引き受けてもらいやすい良好運。感謝の気持ちはしっかり伝え、あなた自身もできるだけ人のお手伝いを。  
【健康運】前半は無理をしないように。後半は大きく上昇。  
【幸運の食べ物】アシタバ

牡羊座  
3/21～4/19

【全体運】早めの行動が吉と出ます。状況が変わりやすいので優先順位を常に意識して。交渉は丁寧に進めましょう。  
【健康運】好調ですが後半は下り坂。休憩を忘れずに。  
【幸運の食べ物】インゲン





▲ 摘果のポイントを学ぶ参加者

桃専門部は5月19日、南部町の生産者園地で桃の摘果講習会を開き、29人が参加しました。農業普及振興室三戸分室の斗ヶ澤一雄総括主幹を講師に招き、桃の安定生産に向けた摘果のポイントなどを学びました。

満開50～70日後頃は核割れや生理的落下の多発が心配される硬核期を迎え、あかつきは6月14日、川中島白桃は6月15日ごろから硬核期が始まる予定です。講師は「硬核期は核割れや裂果を引き起こし、樹体生理がもっとも不安定な時期です。強度の摘果を避け、予備摘果、仕上げ摘果、見直し摘果と3回に分けて摘果してください。その際、予備摘果はなるべく早くとりかかってください。さらに、徒長枝整理は控え、硬核期終了後から複数回に分けて行ってください」と呼びかけました。

## 桃 摘果のポイント学ぶ



▲ 説明に耳を傾ける参加者

にんにく専門部は5月13日と14日の2日間、管内15ヶ所のにんにく栽培講習会を行い、福地野菜集出荷場で行った講習会では19人が参加しました。

農業普及振興室三戸分室の山下のぞみ主幹が講師を務め、にんにくの生育状況、今後の管理方法について説明しました。4月から5月上旬にかけて、天気の良い日が少なく、降雨が多い状況であったが草丈は平年並み、茎径は平年に比べ太い結果となったことを報告。講師は今後の管理として「雨が多かったため、根傷み防止のため排水対策を徹底するほか、葉面散布剤を活用して茎葉を健全に保ってください。また、降水量や気温も高くなる傾向から病害虫対策に努めてほしい」と生産者へ呼びかけました。

## にんにく 今後の管理方法学ぶ



▲ 表彰状を受けとる小原良洋組合長(中央)

J A八戸は、令和6年度の共済事業普及活動において顕著な成績を収めたことにより、全国表彰されました。

5月20日、上長本店で表彰伝達式が行われ、全共済青森県本部の葛西真司本部長より小原良洋組合長へ表彰状が手渡されました。J A八戸は、今回で3年連続の受賞となります。

組合員・利用者を第一に“寄り添った”3Q活動の実施に努め、今年度も普及活動に力を入れてまいります。

## 令和6年度J A共済優績組合全国表彰



▲ 播種作業を学ぶ営農指導員

営農経済部は5月15日、階上町の生産者ほ場および階上野菜集出荷場で営農指導員向けにねぎ指導レベルアップ研修会を行い、営農指導員8人が参加しました。

営農指導員のレベルアップを図り、技術を身につけることが目的。若手指導員の育成につなげる。営農指導員は播種と定植作業の一連の流れを学びました。

当J Aのねぎの取扱数量は1,378 tで販売金額は6億1,600万円。早出しねぎや新規作付けなどに力を入れ、令和7年度には7億3,200万円を目指しています。

## 営農指導員 ねぎ指導レベルアップ研修



## 愛媛県 JAえひめ中央

地域の活性化

## 複合施設「みなとまち まってる」を開設 若年層や家族連れの利用増やす“JA事業の広告塔”

※シンカは、以下の3つの意味を含めた言葉。

自己改革の進化から深化へ、真価を発揮する3つの「シンカ」



### 選果場跡地の活用へ複合施設を開設

JAえひめ中央は、2019年に複合施設「みなとまち まってる」を開設しました。選果場跡地の活用方法を検討する中、組合員からは農産物をPRできる食堂、JA内部からは本店で手狭になっていた金融店舗の移設が要望として上がっていました。また、異業種交流会で社会福祉法人との情報交換をきっかけに、待機児童対策や職員の福利厚生として保育園併設も決まり、複合施設にすることとしました。



複合施設「みなとまち まってる」

### 直売所の農産物を使った食堂やカフェを併設

「みなとまち まってる」には、貯金・共済・ローンの窓口が入る他、隣接する農産物直売所「太陽市」の食材を使ったメニューを提供する「えひめ中央おひさま食堂」「えひめ中央ひなたCAFE」、組合員や地域住民等が利用できる多目的ホール、地元の食材を使った料理教室を開催するキッチンスタジオ、「JAえひめ中央おひさま保育園」を備え、若い世代を含め、地域住民との関係づくりにつなげています。

食堂ではサラダバー、カフェではケーキやパフェなど、地元の旬の野菜や果実を味わえます。また、JAでは、各施設で使えるクーポン券付きの金融商品の販売や、食農イベントにローン利用者を招待するなど、JA事業の利用をしやすいよう各部門が連携しています。その他、地元企業等と連携して、「ハンドメイドマルシェ」や婚活イベント、セミナー等のイベントを随時開催しています。



人気の「えひめ中央おひさま食堂」。  
リピーターも多い

### イベントを計画し、地域との関係づくりを進める

施設の利用者数は順調に増えています。例えば、カフェの利用者数（レジ通過者数）は、23年度に約3万7000人と、22年度と比べ約2500人増加。24年度には、約4万人が目標です。JAは「若い人や家族連れの利用者が増えており、JA事業の利用促進につながっています」と手応えを話します。25年度もイベントを計画しており、「JA事業の広告塔」として、地域との関係強化を進めていきます。

#### 利用者の声

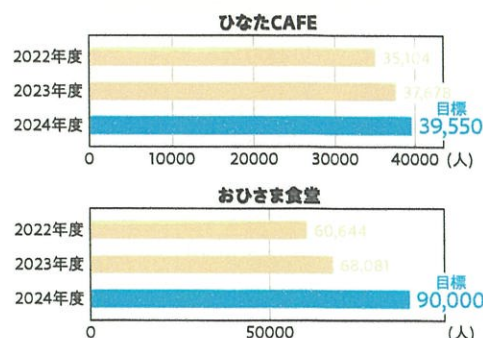


直売所やカフェに寄った後、気軽にJAの窓口にも寄れてありがたいです。



食堂が地元の食材を使っていておいしい。直売所で買った農産物を自分で調理する際の参考にしています。

### 「みなとまち まってる」 食堂、カフェの利用者数の推移



問い合わせ JA全中 JA組織・経営対策部 JA改革支援課 ☎03-6665-6040 ✉jakaikaku.s@zenchu-ja.or.jp

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた動画や全国のJAの取り組みがご覧になれます。

<https://org.ja-group.jp/challenge/>

発行／JA全中（一般社団法人 全国農業協同組合中央会）



JAグループ

耕そう、大地と地域の未来。



## 長野県 JAながの

農業者の所得増大・農業生産の拡大

## 入札式の中古農機販売会が好評 安価に購入でき農家の所得向上・生産拡大に貢献

※シンカは、以下の3つの意味を含めた言葉。

自己改革の進化から深化へ、真価を発揮する  
3つの「シンカ」

自己改革 実践中!



### 組合員の「なるべく安く買いたい」の声を受け開催

JAながのは、入札方式の中古農機販売会を2022年度から開催しています。来場者が希望する農機を選び、購入価格を記入して入札箱へ投函すると、後日、JAの農業機械センターから落札者へ連絡がいく仕組みです。原材料や物流費の高騰による値上がりに加え、新品の一部機種では半導体不足による納期の遅延が発生していたことを受け、「なるべく安く、春作業に向けてすぐ使える農機が欲しい」という組合員の声に応じて開催。所得向上・生産拡大につながるなど大変好評です。

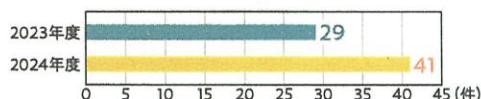


欲しい中古農機の入札に参加する組合員

### 旺盛な需要から24年度の入札数は前年度を上回る

24年度は、3年連続となる3回目を2025年2月に開催しました。会場には、トラクターやコンバイン、田植え機、スピードスプレーヤー、管理機など中古農機30台に加え、値上げの前に仕入れた“掘り出し物”のトラクターや管理機など合わせて50台を展示。来場者がさまざまな農機を検討できるよう、JAは中古農機の台数確保に努めました。来場者数は92人、入札数は前年度を上回る41件でした。中古農機を通常より安く買えることもあり、組合員からは好評です。JAは「中古農機の確保は大変だが、入札数も増えてきており手応えを感じている」と話します。

#### 中古農機販売会の入札数



さまざまな中古農機が並ぶ24年度の中古農機販売会

### 1年かけて中古農機の台数確保に努める

引き続き、25年度も開催を予定しています。組合員の中古農機の需要が旺盛のため、JAでは1年をかけて地道に農機の下取り・修理を進めるほか、JA全農とも協力して中古農機の業者に声かけを進め、展示する中古農機の台数確保に努める考えです。

JAは「次の開催までにより多くの中古農機を確保し、組合員の要望に応えたい」と意気込みます。

#### 組合員の声



入札式のため、早いもの勝ちではなく、ゆっくり農機を吟味できていい。



農機の価格が高騰し、なかなか買い替えができない。中古農機を探せる機会はあるがたい。

問い合わせ JA全中 JA組織・経営対策部 JA改革支援課 ☎03-6665-6040 ✉jakaikaku.s@zenchu-ja.or.jp

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた動画や全国のJAの取り組みがご覧になれます。

<https://org.ja-group.jp/challenge/>

発行/ JA全中 (一般社団法人 全国農業協同組合中央会)



JAグループ

耕そう、大地と地域のみらい。





©みんなのよい食プロジェクト